



幼稚園の起源

多田鉄雄

現在の幼稚園は学校教育法で定められているように教育機関であつて保護機関ではない。しかし幼児の保護機関の存在が必要なることも自明のことである。問題はこの両者が別々に在つた方がいゝか、一つの機関が二つの機能を兼ねるがいゝかである。そしてその判断もその土台が教育的見地、社会的見地、財政的見地、運営的見地その他に依じて色々であろう。たゞ現在の制度が必ずしも最良のものではないことと、現実において相当数の幼稚園が保護機能を欠かず任務をも負わされていることだけはたしかである。

そこでこの問題は恐らく幼児教育関係者の脳裏には絶えず去来しているものと思うが、この問題を考える手が

かりとしては、各国の事情はどうなつてゐるか、又歴史的にはどうであつたかを見ることゝが有力な資料である。その一つの材料として幼稚園乃至保育所の起源について調べて見た二、三のことを紹介して見よう。

一七七〇年にオランダに遊戯学校と云うのが設立された。これは幾組かの家族が共同して、熟練した保姆の指導の下で、同年輩同境遇の子供達が一緒に遊んだり作業したりして時を過ごすようにしたものである。これは幼児の家庭教師を共同で頼んでゐるようなもので保護機関と云うより教育機関であつた。

ほゞ右と同時代に貧困な家庭の、しかも両親が欠けために世話の出来ない幼児を集めて保育する託児所が生れ初めたのであるが、その著名なものは一七七九年にオーベルリンがライン河上流の地ワスガウに設立した託児所である。これは健康的にも道德的にも配慮されずに放置されている幼児を保育するものであつたが、彼の助手ンエプラー嬢の博愛心、教育的才能は、この託児所に貧しい若い少女達のための裁縫塾を併設して、いわば子守学校のような運営をしたのである。今その教案を引用すると次のようなものである。(a)宗教1 道德的な物語2 折り3 聖書中の格言4 新旧聖書の物語5 讚美歌 (b)教科1 会話、言語練習2 博物3 郷土地理4 図画5 小石、小木

片での工作 (c) 作業1毛、木綿、絹の選分け2色や形による分類整理3花環作り4折紙5刺繡 (d) 遊戯と身体活動1ボール遊び、席取りあそび2草取り、植物の世話3戸外散歩。これを範にして次第に各地にこの種の託児所が設立されて行った。

一八一六年一月、ロバート・オウエンはスコットランドのニウナークの自己の工場に付設して、その工場労働者の幼児達のために工場託児所を設立し織匠にして優秀な指導者たるブキャナンをして之が運営に当らせたのである。こゝでは保育時間の半分を自由遊び、良習慣の涵養にあて、あと半分で読み書き算の初歩を教えたのである。これが、英国議会の議員で、例えば「貧民教育改善法案」を提出するなど貧民教育、幼児教育の先駆者たるブローラム卿の注目するところとなり、ロンドンにもこの種の施設が設立され、更に一八二七年までに各地に約五百のものが設立されたのである。一八二〇年に体育重視の方針でスピタルフィールドにこの種の施設を起し一八二三年には「幼児教育の重要性について」なる著書を表わし、一八二八年に創立された幼児学校協会代表者に就任したウルダースピン等の努力によって、現在の幼児学校の堅い基礎がきずかれ、一八七〇年以後は文部省によって初等教育機関として認められてくるのである。

一八八一年にフランス政府によって母親学校と命名され二才から五才までの幼児保育施設として学校に付属され現在にいたっているものは、その起源を一八二六年にパストレー夫人及びミレー夫人によって開かれた「庇護の部屋」に持つものであるが、これは英国の幼児学校の思想と形態の影響の所産である。

フレイベルがブランケンブルクに一八三七年に設立し一八四〇年に幼稚園と命名したことはあまりにも有名であるが、元来この名前は施設に対して付けたのではなく幼児独自の教育の眞の創始者たるフレイベルが幼児を囲む環境を、まさに幼児を自然の中の植物にたとえて、かく名付けたのであった。

ナーサリー・スクールはその名は一九〇九年に貧民街の子供達の教育のために設立されたロンドンのマクミラン・ナーサリー・スクールが最初であるが、実質的には幼児の教育段階を一才から三才までと四才から六才までに分ち考えたロバート・オウエンがアメリカのインディアナ州「ニューハーモニー平等村」に一八二六年に設立したものが最初と云える。その後アメリカにおいてはこれが特に個人心理学の側から大学附属の施設として特別の役割を果していることは云うまでもないことである。我が国については改めてのべる。(おわり)